

デマンドバス、試行開始

美濃加茂市 タクシー活用、効率化



「あい愛予約バス」の第1便に乗車する利用者
=美濃加茂市太田町

美濃加茂市は14日、古井地区で利用者の予約に応じて運行するデマンドバス「あい愛予約バス」の試行運行を

スタートさせた。タクシー車両を活用して、運行効率や利便性の向上を図る。同地区では、これま

でコミュニティバス「あい愛バス」が市街地循環線として運行。しかし、利用者は年々減少しており、より良い公共交通サービスを提供しようと、デマンドバスの導入を検討してきた。

利用者は、委託する新太田タクシー＝電話0574（48）8852に事前予約。これまでのあい愛バスの停留所に加え、新たに

設置された5カ所の停留所で乗降車できる。「構築したい」とあいさつ。あい愛予約バスの運行は月～金曜で、美濃加茂市役所、美濃太田駅、総合福祉会館など市街地と古井地区を計6便で結ぶ。料金は大人300円、小中学生150円（6月13日までの無料）。

この日、同市太田町のJR美濃太田駅北口で試行運行開始セレモニーがあり、海老和允副市長が「より効率化

的なバスシステムを構築したい」とあいさつ。あい愛予約バスのマグネットシートが張られた第1便が、利用者4人を乗せて総合福祉会館に向け発車した。乗客の一人、今井まさきさん（76）＝同市島町＝は「慣れるまでは大変だけど、目的に合わせて活用したい」と話していた。

（根尾文悟）

線」の2路線も運行を開始。
11路線でコミュニティバス
を運行している。



つい、住民の利便性を強調
した。
古井地区のデマンド型乗
合タクシーは1日6便で、
停留所は41カ所。運賃は1
回300円（来月13日まで
は無料）。新太田タクシー
でのデマンド型運行は、可
児市の1路線に次いで2路
線目。系列の可児タクシー
では可児市で4路線を運行
している。

海老和丸副市長は出発式
で「タクシーによる運行で
効率的になり、短い時間で
目的地に行ける」とあいさ
する。

美濃加茂市 デマンド乗合開始

岐阜県美濃加茂市で14
日、デマンド型乗合タクシ
ーの運行が開始した。同日、
JR美濃太田駅前で関係者
による出発式（写真）が行
われた。

デマンド配車に優秀賞

新太田タク開発のシステム



デマンド交通の配車システムで表
彰を受ける新太田タクシーの澤田
社長（5日）

ど、「ぎふ地域ベンチャーアー
支 援 ネットワーク NOBU
NAGA 21」のニュービジ
ネスプラン助成金の第8回
募集で優秀賞を受賞した。
同ベンチャーアー支援ネット
ワークは十六銀行（岐阜
市）、野村證券（東京）、監
査法人トーマツ（東京）が
主催。

今回の募集では、最優秀
賞（100万円）に、五合
(春日井市)の「直感型ク
レーンコントローラーシス
テム事業」。優秀賞（10万
円）に、新太田タクシーと、
3D dragons (名古屋
市)の「シートレンズを用
いた超薄型指紋・静脈セン

新太田タクシー（美濃加
茂市、澤田幸博社長）の
「システムの開発」がこのほ

サーの開発と製造」が選ば
れた。授賞式が5日行われ、各
社の代表に表彰状と助成金
が手渡された。



岐阜・可児タク

デマンド交通の配車システムの説明を受ける中運局の甲斐局長—写真中央（4月23日）

中運局長、デマンド視察

「地域に合った公共交通を」

中部運輸局の甲斐正彰局長は先月23日、新太田タクシーグループの可児タクシーデマンドタクシーの配車システムなどを視察した。同局長は「地域に合った公共交通をどうが重要な要素」と述べ、澤田社長から説明を受けた。可児市の佐橋雅喜副市長、岐阜県タクシーアクション会の山田久典会長らとも意見交換した。

甲斐局長はあいさつし、「最近は地域に合った公共交通をどう確保していくか、を重点に考えている。規制緩和の結果、事業者任せではなく、住民はどう理

べ、澤田社長から説明を受けた。可児市の佐橋雅喜副市長、岐阜県タクシーアクション会の山田久典会長らとも意見交換した。

甲斐局長はあいさつし、「最近は地域に合った公共交通をどう確保していくか、を重点に考えている。規制緩和の結果、事業者任せではなく、住民はどう理

べた。

可児タクシーがセダン型タクシーで運行している「電話で予約バス」導入の経過などについて可児市の担当者が、配車システムについて澤田社長が説明した。

意見交換では、岐阜タクシーアクション会の山田会長が「過疎地と、過疎と地方の中間的な地域があり、コミュニティバスで

解をいただくが重要になっている。自分で歩けなくなる、運転できなくなる人の移動手段の確保をどうしていくか、今のうちに考えていくという観点で、強い問題意識を持っている。今日の内容を今後の行政に反映させていきたい」と述べた。

視察に同行した村田有治新太田タクシー（56台）、御嵩タクシー（6台）、多治見タクシー（45台）の一般タクシーと複数のデマンド交通の配車を同じ配車室

で運行によるタクシー事業への影響をただしたが、澤田社長は「一部、従来タクシーや、金体としてはプラスになっている」と述べた。新太田タクシーグループでは可児タクシー（25台）、

新太田タクシー（56台）、御嵩タクシー（6台）、多治見タクシー（45台）の一般タクシーと複数のデマン

ド交通の配車を同じ配車室で管理。予約を受けた際に、246カ所に上るデマンド面についても、デマンド専

従の乗務員4人を雇用。車両は既存のタクシーを活用

している。

面については、デマンド専従の乗務員4人を雇用。車両は既存のタクシーを活用している。

出展できるなどのメリットがある。

本年度は14社から評

価依頼があり、事業可

能性等評価委員会（委

員長・牛込進T Y K会

長）が判定した。

A評価を受けたのは

次の各社。カッコ内は

事業名。

▽河合石灰工業（超高

性能ナノファイバー・フィ

ルター製品の製造）▽高

田化成工業（銅めつき織

維）▽カネキ製陶所（光

触媒担持セラミックスの

製品開発）▽足立工業（爪

やすり「TOOG」）▽

バイザ（「すぐメール」

による自治体広域プロモ

ーションサービス事業）

▽新太田タクシー（普及

型デマンド配車システム

の開発）▽岐阜バッテリ

ー販売（商用電源・自然
エネルギー兼用蓄電システム）
▽甲山製作所（立ち上げリスタート工
法）▽ypewriter（立ち上がり動作が容易な「昇降座いす」の開発）

県産業経済振興センターは18日、事業可能性評価の評価証交付式を岐阜市薮田南のふれあい福寿会館で行った。本年度は9社をA評価と判定、9社の経営者らに評価証を手渡した。

同評価は企業の新規事業計画や新商品について、有望性や実現可能性を審査。事業可能性が高いとするA評価

9社をA評価と判定

県産経センター 事業可能性を審査

